



年頭にあたって

執行委員長 小林 國博

生き様と仲間を大切にして共に奮闘しよう！

組合員・OB、家族の皆さん！謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

JR東海労結成以降のあらゆる攻撃を跳ね返し、20回目の新たな年を仲間の皆さんと共に迎えることができました。そしてその戦列に新たな仲間が加わっていることを皆さんと喜び合いたいと思います。しかしその他方で、東日本大震災と福島第一原発事故の被災者の方々は今もなお苦しみ続けています。

福島第一原発からはいまだに放射能がまき散らされ、収束の目途が立ちません。人間以外の多くの動物や自然も犠牲になっています。愛する人を失った人や生活の手段を奪われた人が自ら命を絶っています。私たちはこのことを絶対に忘れてはなりません。

福島第一原発の現地では、必死の収束作業が続けられています。しかしそこには、国民を騙しつづけて原発を推進してきた連中はいません。大量の放射能を浴び続けて、必死の作業を続けているのは、私たちと同じ現場の労働者です。避難させられた方々がその故郷に帰ることはないと思います。子どもたちは何の責任もないのに、大人の4倍以上の感染の危険性を押し付けられています。「それがどうした！」「大人でも、子供でも、それくらいリスクは覚悟しろ」という考えの持ち主が、葛西会長です。そもそも、原発の技術とは軍事技術であり核技術なのです。人間と自然を破壊する核兵器をつくるのが、究極の目的なのです。また、リニアには新幹線の何倍もの電力が必要なのです。要するに「核兵器とリニアをつくるためには、他人の命や安全など関係ない」と思っているのです。

政府は大震災と原発事故の復興・収束作業よりも、休止中の原発の再稼働と同時に「日本の原発は安全」などと宣伝し、この技術を積極的に海外へ輸出しようとしています。それだけではありません。企業の法人税5%減税を実施する他方で、労働者・人民には「復興財源確保」と「社会保証の財源」を口実に更なる増税をも押しつけよとしています。

職場でも震災とリニア建設を口実にした労働者の奴隷化攻撃と闘う労働組合組織の破壊攻撃が強化されています。皆さん、騙されないようにしましょう。真実を見失わないようにしましょう。常に社会と会社の犠牲になるのは私たち労働者と弱い立場の人間なのです。

私たちは、地本大会で二つのスローガンを採択しました。それは「反核！反原発！働く者が主人公となる社会の実現に向けて、広範に連帯をつくりだそう！」「職場で労働者魂を発揮して更なる組織拡大を実現しよう！」ということでした。そのためにも「職場内外の諸問題に、流されず、騙されず、こだわりを持って、諦めない運動を展開しよう！」ということを確認しました。私たちの存在意義は益々重要になっています。

組合員・OB、家族の皆さん！今年も自らの生き様を見失うことなく、仲間を大切にして共に奮闘しましょう！